
【11月15日】関西学院礼拝堂にクアクレの妙なる響き

(2017/11/15 水曜日 13:42:40 JST) - 投稿者 webmaster - 最終更新日 (2017/11/16 木曜日 09:41:08 JST)



??? 溝口明子さん(当協会会員)のクアクレとヴァイオリンの秦 進一氏による「ウズマニープ」演奏会が11月9日午後5時より、関西学院のランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原キャンパス)で開催され、集まった聴衆は初めて聴くラトビアの伝統的民族楽器・クアクレの美しい音色に酔った。? 主催した池田裕子さん(同学院史編纂室・関西日本ラトビア協会常務理事)から、「礼拝堂にクアクレの調べは合いすぎて、恐ろしいほどでした。『礼拝堂内に響く感覚が、大変心地よかった』と演奏者も言っておられました。私はオゾリンの写真を横に置き、最前列で聴きました。オゾリンもこのようにヴァイオリンを弾いていたのか…と想像し、感無量でした。大好評だったため、来年も11月にラトビア建国100年記念も兼ねて演奏会をお願いすることになりました」とコメントが寄せられた。? 新しく大使館員として赴任されたアリーザさんもクアクレ演奏が得意で、10月の「ラトビアの歌を歌う会」で披露され会員を感動させた。来年はクアクレの演奏を聴ける機会が多くなりそうで楽しみだ。【編集室】??





第210回ランパス演奏会
Lambuth Chapel Concert
 クアクレとヴァイオリンによる
ラトビア伝統音楽の調べ



ラトビアは別名「歌の国」。古来より自然の恵み、年中行事と
 伝統音楽、めぐる季節や美しい自然を歌で表現し、伝えてきた。民
 俗的の民謡、大切に守られている古謡曲も、クアクレとヴァイオ
 リンで演奏します。



クアクレ (klapci) とはラトビアの民族楽器です。
 石や木がくっついた板に木からくり出しているこの
 楽器を振り、その音響と対応するリズムで奏でられた
 という「楽観」以上の意味を持つ存在です。



満口 明子 / クアクレ 秦 進一 / ヴァイオリン

クアクレ演奏会 (2014年)

